

# スポーツ研究センターニューズレター

## 「いかに歴史を変えるか ～男子バレーボールの変革～」

地域スポーツ人材育成コンソーシアム活動の報告



## (表紙より)

2024年1月11日(木) 茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」(2023年11月26日にオープンした新しい施設)にて、追手門学院大学地域スポーツ人材育成コンソーシアム主催「いかに歴史を変えるか～男子バレーボールの変革～」とのタイトルでパナソニックパンサーズ様をお迎えしてシンポジウムを開催しました。

開催前の2023年12月28日(木)には、講演者のパナソニックパンサーズゼネラルマネージャー・南部正司様(バレーボール男子日本代表チーム強化委員長)とともに、茨木市市民文化部スポーツ推進課の坪田建二様(コンソーシアム会員)、主催代表者・辰本が、茨木市長・福岡洋一様を訪問し、2024年のパリオリンピックに向けた意気込みや本シンポジウム開催の内容についてお話をしました。

今回のシンポジウムでは、南部様をはじめ、パネルディスカッションにパナソニックパンサーズ所属の山内晶大選手、大塚達宣選手(ともにバレーボール男子日本代表)を予定し2部構成での企画で臨みました。

当日は、茨木市民をはじめ遠方より多くのファンの方も会場にお越しいただき、開場の2時間前より受付前に並んでいただくほどの盛況で会場は熱気に包まれておりました。

ただ、残念なことに当日南部様のご体調が芳しくなく、講演者として登壇が叶わず楽しみにされていた方には大変申し訳なく思っております。

急遽シンポジウム内容を変更し、予定の時間をすべてパネルディスカッションで構成しました。当初から登壇予定であった山内晶大選手、大塚達宣選手に加え、同所属の兒玉康成選手にもパネリストとして加わっていただき、選手の皆さんの魅力やバレーボールについて笑いを交えながらお話をさせていただきました。事前に参加者の皆様からいただいたご質問もご紹介しながら登壇者3名とともに会場にお越しの皆さんが一体となりパネルディスカッションは進みました。予定していた1時間30分はあっという間に過ぎ、参加者151名と一緒に活気ある、また楽しいディスカッションの開催であったと思います。

今回のテーマである「いかに歴史を変えるか～男子バレーボールの変革～」は、南部様の講演にひとつの答えがあったのではと思っています。まもなく迫ったパリオリンピックを楽しみにしながら、男子バレーボールの変革の軌跡を追っていきたいと思います。是非、パリオリンピック後に南部様からあんな話、こんな話が聞ければと期待をしています。

(報告:辰本 頼弘)



## 地域スポーツ人材育成コンソーシアム 第10回会議

## 次世代育成ワークショップ “つなぎ” 「スポーツ×生成AI」

2023年12月8日（金）、追手門学院大学安威キャンパス食堂棟3階フロアにおいて、コンソーシアム会議を開催し、会員企業・団体等から12名の参加がありました。

近年、新しい技術として飛躍的に普及しつつある生成AI。今回は生成AIへの理解を深めるため、参加体験型のプログラムとしました。企画・進行は、スポーツ研究センター所員・林勇樹先生（社会学部講師）が担当し、最初に生成AIについての簡単な講義を行い、参加者各自がPCで生成AIアプリを使用し「新しいスポーツをつくる」というテーマに取り組みました。

講義の中では、生成AIと付き合う上での考え方についての話がありました。AIはすべての状況を知っているわけではないので、現在の状況も含めてうまくAIに伝える努力は、ユーザー側が必要があるという点を確認しました。

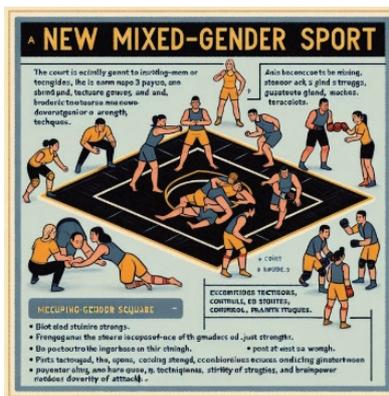
体験演習では、今回の演習のために開発されたGPT-4とDALL・E（ともにOpenAI社が提供する生成AIサービス）を用いて、言語と画像の両方を生成しながら、自分の思考をAIに刺激してもらう体験を行いました。

今回はスポーツを題材に新しいものを生み出す体験をしましたが、実際には参加者が職場やプライベートで新しい取り組みを行う際の思考のパートナーとして、生成AIを活用することができるという点が示唆されました。参加者からは、様々な競技とそのルールが提案され、スポーツについて多様な視点で考える機会となりました。

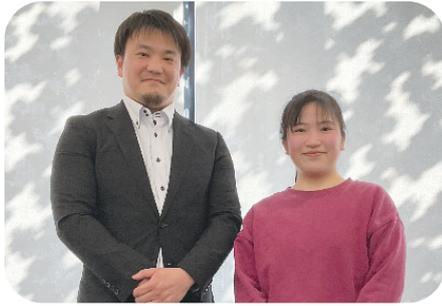
なお今回は、コンソーシアムを人材育成の場としてご活用いただくという趣旨のもと、各企業・団体より次世代の担う若手社員の方にもご参加いただきました。



講義の様子



参加者が生成した、「新しいスポーツ」に関する挿絵



# 飛び出せ世界へ！

がんばる追大アスリート  
第11回

追手門学院大学少林寺拳法部

阿藪品 花音さん（社会学部2回生）

## 阿藪品 花音さん（社会学部 社会学科 2回生）

第56回 少林寺拳法全日本学生大会／組演武女子二段の部2位（2022.11）  
2023大阪府民スポーツ大会／大学生女子の部2位（2023.7）  
茨木大会／単独有段の部 優勝（2023.10）  
2023年少林寺拳法世界大会 in Tokyo, Japan／一般女子二段の部1位（2023.10）  
第57回少林寺拳法全日本学生大会／女子団体3位（2023.11）



### 1. はじめに

**林**：今日は追手門学院大学の少林寺拳法部で活躍されている阿藪品さんにお話を伺います。よろしくお願いします。

**阿藪品**：よろしくお願いします。

**林**：早速ですが、先日の世界大会での結果を教えてくださいいただけますか？

**阿藪品**：10月6～7日に東京の日本武道館で開催された世界大会で、自分は女子組演武二段の部で優勝しました。

**林**：おめでとうございます！他の部員の方の成績も教えてください。

**阿藪品**：他の部員は男子三段の部で優勝し、あと一般団体演武の部で3位に入賞しました。

**林**：素晴らしい成績ですね。世界大会は4年に1度の大会だと伺いました。前回大会はいつ頃でしたか？

**阿藪品**：コロナ禍の影響もあり、前回大会はなんと6年前になります。当時私はまだ中学生で、世界大会のことはあまり知りませんでした。

**林**：なるほど。今大会は阿藪品さんにとって2回目の世界大会出場になるとのことですが、前回とは違う心境で臨まれたのでしょうか。

**阿藪品**：はい。前は小学生の時で、大会というよりは演武発表会のような雰囲気でした。今回は本格的な世界大会に出場する実感がありました。

### 2. 少林寺拳法部の近況

**林**：世界大会での活躍は部としての日頃の活動あってこそだと思います。現在の少林寺拳法部の様子を教えてください。

**阿藪品**：今年は4回生が抜けて、現在部員は15名で活動しています。来年度の新入部員は7名の予定です。

**林**：部員数も安定していて頼もしいですね。男女の比率はどのようになっていますか？

**阿藪品**：男子が9名、女子が6名です。

**林**：現在の部内の雰囲気はいかがでしょう？

**阿藪品**：全員仲が良く、何でも話し合ったり、助け合えた

りする、とてもいい雰囲気のチームだと思います。

**林**：理想的な部活環境ですね。ところで、追手門学院大学の少林寺拳法部は関西でも強豪校だと伺っています。伝統があるのでしょうか？

**阿藪品**：元々、追大に少林寺拳法部があることを知りませんでした。高校の先生から教えてもらい、調べてみると関西で1、2位を争う強豪校だと知り、驚きました。

**林**：阿藪品さん自身も高校時代から数々の大会で活躍されてきたとのことですが、追大に入ってからのご自身の成績を教えてください。

**阿藪品**：1回生の時の全日本で女子組演武 初二段の部で2位に入賞しました。2回生になってからは、先日の世界大会での優勝と、全日本で3位に入賞しています。

**林**：在学中から素晴らしい成績を残されていますね。

**阿藪品**：ありがとうございます。これからも頑張っていきたいです。



### 3. 阿藪品さんと少林寺拳法の出会い

**林**：阿藪品さんが少林寺拳法を始めたきっかけを教えてください。

**阿藪品**：私は小学校2年生の時に少林寺拳法を始めました。13年目になります。4人きょうだい全員が少林寺拳法をやっていて、自然と始める流れになりました。

**林**：なるほど。ご家族みなさんで少林寺拳法に打ち込んでこられたのですね。では、追手門学院大学に進学した理由は何だったのでしょうか。

**阿藪品**：高校3年生の時に、インターハイで追手門学院大学を含む複数の大学からスカウトをいただきました。母と指導者の先生から、自分の行きたい道を選ぶようにと言われて今の道に決めました。

#### 4. 大学生活での挑戦と両立

**林**：大学に入学してからの生活は、部活動と学業の両立が大変だったのではないですか？

**阿藪品**：正直、とても大変でした。1回生の頃は、先輩方のお世話や練習の準備などの部活動のタスクに加えて、授業課題もあり、さらに私は1回生から教職課程を履修していたので、毎日がとても忙しかったです。

**林**：教職課程も履修されていたのですね。そんな中で、部活動と学業をどのようにやりくりしていましたか？

**阿藪品**：自分が決めた道だからというのもあって、あきらめずには頑張りましたが、どちらも手を抜くわけにはいかなかったので、とにかく時間を有効に使うことを心がけました。

**林**：なるほど。それに加えて、アルバイトもされていたとお聞きしました。

**阿藪品**：授業と部活動の合間を縫って、アルバイトをしていました。

**林**：本当に大変だったと思います。そんな多忙な毎日の中で、怪我をされたこともあったそうですね。

**阿藪品**：はい。去年の6月に右膝を痛めてしまいました。医師からは安静にするようにと言われていましたが、大会シーズンだったこともあり、思うように休養を取ることができませんでした。追Fitのリハビリ・ケアを受けながら、練習を続けました。

#### 5. 少林寺拳法の魅力

**林**：ここで、少林寺拳法そのものについてもう少しお聞きしたいと思います。

**阿藪品**：少林寺拳法は護身技法といって、戦うことを目的としていません。人づくりとしての側面や、自分や相手、周りの人を助けたり守ったりするための武道です。

**林**：なるほど、競技としての勝敗以外に明確な目的があるのですね。試合形式や採点方法についても教えていただけますか？

**阿藪品**：少林寺拳法は、「単独演武」、「組演武」、「団体演武」の3種目があり、男女別で行われて合計6種目になります。組演武は攻撃側の「攻者」と防御側の「守者」に分かれ、攻者が技をかけ、守者がそれを防御し反撃するという形式です。

**林**：攻者と守者が交互に入れ替わるのですね。

**阿藪品**：はい。それを審判員5名が「技術」「表現」など複数の観点から採点します。100点満点で、最高点と最低点を除いた3名の審判の合計点で順位が決まります。

**林**：審判員の好みによって評価が変わることもあるのでしょうか？

**阿藪品**：あります。演武が力強いのを好む審判もいれば、美しさや表現力を重視する審判もいます。

**林**：なるほど。では、阿藪品さんの得意技や強みを教えてください。

**阿藪品**：私は「投げ技」が得意です。また、女子選手の中では比較的力が強いと言われます。女子の演武は華奢なイメージがありますが、私は力強さを表現できるのが強みだと思っています。

#### 6. 部活の厳しさと仲間の大切さ

**林**：阿藪品さんが部活動で特に大変だったことはどんなことでしょうか？

**阿藪品**：何と言っても夏合宿です。1週間みっちり練習漬けの日々を過ごします。練習内容も過酷で、特に「基本練習」と呼ばれる、相手を突いたり蹴ったりする練習は、気合が十分でないと何度もやり直しを命じられます。100本以上になることもよくあります。

**林**：100本以上!? 信じられないような練習量ですね。

**阿藪品**：夏合宿はとにかく精神的に追い込んで、強くなろうという目的のもとなので(笑)



#### 7. 今後の目標と展望

**林**：阿藪品さんの今シーズンの目標を教えてください。

**阿藪品**：今シーズンは、関西大会で結果を出すことと、全日本で優勝することです。

**林**：大きな目標を掲げていますね。その先の将来の目標はありますか？

**阿藪品**：私の夢は、少林寺拳法の指導者になることです。自分が少林寺拳法を通して学んだことを、次の世代に伝えていきたいです。

**林**：素晴らしい目標ですね。指導者になるためには、どのような道のりを考えていますか？

**阿藪品**：まずは教員免許を取得することが目標です。ただ、教員になる前に、一般企業で社会人経験を積むことも大切だと考えています。様々な経験を通して、人間的に成長してから教壇に立ちたいと思っています。

**林**：最後に、これから少林寺拳法を始めたいと考えている学生にメッセージをお願いします。

**阿藪品**：少林寺拳法は、競技としての面白さだけでなく、自分自身と向き合える武道だと思います。辛いこともたくさんありますが、その分得られるものも大きいです。興味がある方は、ぜひ一度体験してみてください！

(2024年2月28日に実施。聞き手：スポーツ研究センター 林 勇樹)

## 研究員就任のごあいさつ



追手門学院大学 スポーツ研究センター 研究員

株式会社Sports Multiply 代表取締役

追手門学院大学 トレーニングセンター アスレティックトレーナー 佐藤 哲史

私はアスレティックトレーナーとして、医療機関とスポーツ現場の橋渡しを約20年行っています。主に学生スポーツのサポートをし、選手や指導者、保護者などと一緒にスポーツを通じた学びや喜び、つらさなどを体感してきました。追手門学院大学では、2018年4月から大学トレーニングセンター（追fit）の管理を任せていただき、現在に至っています。

医療を提供する立場では、安全性を第一に考え、現場で指導する立場ではチャレンジを追求しています。時には相反する現場の中で、うまくバランスを取ることが求められています。そのバランスを取るために、スポーツ医科学が重要だと考えています。経験則だけでなく、限定された科学だけでなく、テクノロジーの進化を活用しながら、自身のアスレティックトレーナーとしての経験や感覚と先人たちがこれまで積み上げてきたスポーツ医科学の知見を結びつけ、選手自身の感覚と融合させる施設として、トレーニングセンター（追fit）は理想を追い求めて運営しています。

トレーニングセンターには、学生アスリートのパフォーマンス向上や一般生徒・教職員の健康維持増進を目的に様々な機器を設置しています。フィットネス系マシンはもちろん、高精度の体組成計やペダリングによるパワー測定器、床反力を用いた筋力測定器、スピードを測定するための光電管など、選手のパフォーマンスを数値化できる機器を揃えています。これらを用いたフィジカル測定を新入生や各クラブを対象に実施し、その結果は選手や指導者の皆さんと共有しています。



自身のパフォーマンスを感覚と客観的なデータと照らし合わせる習慣は、学生アスリートとしてだけでなく、DX化が進む社会で活躍する人材としての経験値としても重要です。自分の身体とトレーニングを通して、アスリートとしても社会で活躍する人材としても成長できるようなサポートをスタッフ一同がけています。また、トレーニングセンターでは、強化指定クラブのケガの管理も行っています。まだ全てのケガを把握できるまでには至っていませんが、グラウンド・体育館と医療機関の間に入ることで、医療で提供される日常生活までのリハビリから、その先のスポーツ復帰を円滑に進められると考えています。

フィジカルデータやケガのデータなど、スポーツに関わる重要なデータをトレーニングセンターで管理しつつ、様々な分野の専門家であるスポーツ研究センターの先生方と共同で研究に繋げていくことを楽しみにしています。



## 【地域連携事業】2023年度 高齢者の運動実践支援に関する報告

### <はつらつ運動サークル>

2017年度から本学と茨木市地域福祉課、茨木市老人クラブ連合会、ならびにシンコースポーツ(株)などの団体が連携し、サークルを運営している。2023年度も当スポーツ研究センターからの支援を受け、下記表1の様な日程で事業を展開した。運動サークルは、水中運動グループ、陸上運動グループに分かれており、水中運動グループは、さらに2グループで構成し、西河原市民プール（年度初めの登録人数24名）ならびに五十鈴市民プール（8名）においてトレーニングを実施した。陸上運動グループ（22名）は、本学の体育館でトレーニングを行った。また、トレーニングを実施しないコントロールグループ（7名）も編成した。

集合トレーニングのセッションは、水中、陸上の各群で年間26回を設定した。運動は、持続的な運動を中心に行なった。春学期13回、秋学期13回を週1回の集合トレーニング日とした。また、別日の自主トレを合わせて週2回の運動を実施することとした。約3ヶ月間、このトレーニングを実施した。その後の3ヶ月間は、集合セッションを設定しない非トレーニング期間とした。これらを交互に2回繰り返す中で、各トレーニング期間後に「測定会」を実施した（7月と1月）。

測定会では、参加高齢者の体力、身体組成、動脈コンプライアンス、日常身体活動等のデータを取得した。数年間のデータを蓄積し、縦断的なデータ分析を行うことを目指している。データは、各参加者に個別シートのかたちでフィードバックし、各自の健康管理や体力の維持等に役立てていただいている。サークルへの参加登録者数は、2023年度初めは前述の人数の合計で、61名であった。その後、1月の測定会が終了した2024年1月時点では56名に減少した。この56名の年齢は76.0 ± 5.1歳（平均年齢±標準偏差）であり、継続参加者の高齢化が徐々に進んでいる。なお、56名中55名が、2024年度も参加を継続する予定である。

2023年1月（一部3月実施）と2024年1月の両測定会に参加したトレーニンググループのデータを集計中であるが、本報告では、高齢期に重要となる体力の3要素、筋力、柔軟性、持久力について、2時点の比較を行った結果を図に示す。2時点の測定を完遂した44名のデータ（水中と陸上、両グループの合算）を用いて集計を行った。縦棒は、各個人のデータであり、2時点を比較した変化量を示す。握力（筋力）と長座体前屈（柔軟性）においては、マイナスの変化量を示す人数（縦棒の数）が多く、両時点の平均値においても統計学的に有意な差がみられた（t検定、 $p < 0.05$ ）。一方、6分間歩行においては、100m以上歩行距離が減少した参加者がいたものの、2時点における平均値に差はみられなかった。はつらつ運動サークルでは持久力系のトレーニングを実施していることから、参加者の持久力維持において一定の効果があったと考えられる。

今後、他の測定項目も含め、さらに詳細な分析を行い、より長期的な経年変化を明らかにする予定である。

（報告：松井 健）



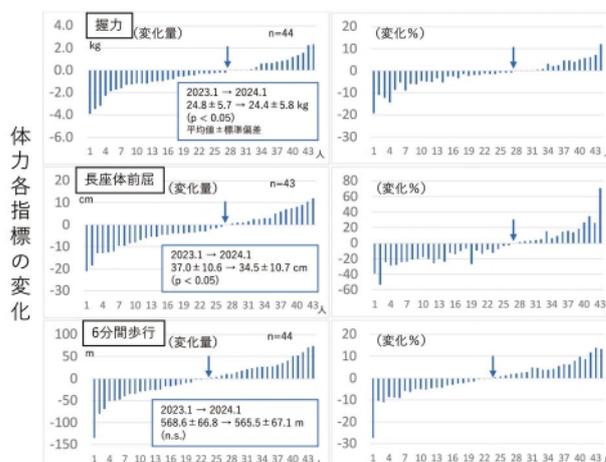
水中運動トレーニング



6分間歩行の測定風景

表1 年度はじめにサークルメンバーに配布する日程表

★春日程														測定会		
グループ	曜日・時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	継続者	新入会者
西河原市民プール	金 12:15-13:00	3/31	4/7	4/14	4/21	4/28	5/5	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	事前	1/14, 21, 22 (土曜日)
五十鈴市民プール	水 13:15-14:00	4/5	4/12	4/19	4/26	5/3	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	事後	7/1, 8, 9 (土曜日)
追分体育館	月 8:15-9:00	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	※7/1は、最大グループ< ※継続者は、他の季節も、前年の事後測定とする	
★秋日程														測定会		
グループ	曜日・時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	継続者	新入会者
西河原市民プール	金 12:15-13:00	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22	1/5	事前	9/24, 30 (日)
五十鈴市民プール	水 13:15-14:00	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/10	事後	1/13, 20, 21 (土曜日)
追分体育館	月 8:15-9:00	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	12/25	1/8		



※ 変化量：[2024.1測定値-2023.1測定値] %差：[(2024.1測定値/2023.1測定値\*100)-100]  
 ※ 変化量のデータは、値による並べ替えを行っている。矢印は、プラスに変化した者とマイナスに変化した者の切り替わりポイントを示す。変化%のデータは、実測値の順番に対応した配列とした  
 ※ データは、水中運動グループおよび陸上運動グループの同時点の測定を完遂した者のデータを示す

図 トレーニンググループにおける筋力、体幹柔軟性、持久力の1年間の変化量及び変化%

## 第13回追手門学院大学杯観戦記



茨木市スポーツ少年団 野球部会 Cブロック長 池田 尚史

昨年度より、出場チームを6チームから8チームに増やし、大会を実施することとなりました。スポーツ少年団に所属する全15団の中から、所属する各ブロックのリーグ戦を勝ち抜き選出された計8チームが追手門学院大学のグラウンドに集い、ブロック選抜の頂点を目指し、冬の厳しい寒さの中、寒さを吹き飛ばすほどの熱闘を繰りひろげました。開会式は好天に恵まれたものの、3日目は雨天により順延することになったものの、翌日にはグラウンドを整備し、予備日を含めた4日間で無事に全試合を終えることができました。

どの試合も、さすがに各ブロックを勝ち上がったチームであり、どの試合も白熱した好ゲームで、一挙手一投足いずれも緊張感のある攻防であったと思います。新チームであった春先には、プレイにまだ清慮されたものは見られなかった選手たちですが、この一年間で一回りも二回りも成長し、一つ一つのプレイに雑なものやエラーなども見られず、緊迫した場面も随所にみられました。グラウンド内を駆け回る選手、ベンチ、応援席が一体となって、たった一つの白球を追い盛り上がる姿に、見ている我々も感化され手に汗を握りながら真剣に見入ってしまいました。

決勝戦は中条ウイングスと玉櫛スラッガー。両チームは一年通じて優勝を競い合い、リーグ戦では玉櫛スラッガーが勝利し、リーグ1位の結果でありました。試合については、序盤から中条ウイングスの投打がかみ合い、一年通じてチームが一丸となって鍛え上げたその強さをいかんなく発揮できたような試合展開で、9対1のスコアで中条ウイングスが勝利。リーグ戦の雪辱を果たす結果となりました。

最後に、大会開催にあたり、多大なご尽力とご協力をいただいた関係者各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。



### 追手門学院大学 スポーツ研究センターニュースレター No.15

■ 編集・発行 2024年3月31日

■ 編集代表者 辰本 頼弘

■ 発行所 追手門学院大学 スポーツ研究センター

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

TEL/072(641)9690

FAX/072(641)9695 (事務局：研究企画課)

E-mail sports@otemon.ac.jp

<https://www.otemon.ac.jp/research/labo/csr.html>